

夏の安定期には天気変化によって気温、風速等に影響をあまり受けていない。

ここまで述べてきたことから、昭和基地の季節区分を行い、その特徴を述べると次のようになる。

① 気温と気圧変化や他の要素の対応から見ても昭和基地の夏としては12～2月中旬としてよさそうである。

② 2月下旬～5月上旬は気温が持続的に下降し雲量の増大（それまでの好天ペースから曇天が多くなる）、風速の強まる夏から冬への季節の移行期で秋にあたる。10 m/s 以上の風が強いことが多くなり、厳しい気象条件ができやすい。

③ そして、5月中旬から9月中旬は、気温も下がり風も強く1年のうちで最も気候の厳しい季節にあたり真冬である。この時期には約1カ月のリズムで風速の強まりが見られ年によってはかなり規則的な周期変化もみられ、ある程度天候の予想にも役立つ時期でもある。また冬の前半の5～6月は比較的晴天も多く、このために放射冷却も進み気温の下降は促進される。

④ 8月末に低温のピークが出たあと9月下旬～10月は気温上昇の大きい時期で季節は真冬から春へと向かう。風速の変化はこの時期までは1カ月リズムが見られる。

⑤ 10月中旬から11月一杯にかけては、気温が爆発的に上がる春で風速、雲量共次第に減少し、野外活動しやすい時期へとはいれる。

5. むすび

1957～1984年1月の22年間の地上要素について、半月平均値を作り半月別の季節変化を見た。ここでは地上気象観測値のみを使つての調査であるため厳密さを欠いた

箇所が多い。今後は高層観測データおよびオゾン観測データについても解析を試みたいと思う。また、これらの相互関係、経年変動的な長期変動についても次回に報告したい。

最後に、本調査を行うに当たって、国立極地研究所川口貞男教授、山崎道夫東京航空地方気象台台長に有益な御助言を頂き、またデータ作成において南極観測事務室に御努力を頂き深く感謝致します。

文 献

- 福谷 博, 1983: 極地気象学・南極, 天気, 30, 289-293.
- 川口貞男, 1979: 南極の気象, 天気, 26, 335-345.
- ・佐々木 浩, 1975: みずは観測拠点の日射収支, 南極資料, 54, 34-41.
- 気象庁観測部南極観測事務室, 1981: 昭和基地の気候資料, 南極資料, 73, 273-275.
- 小林俊一, 1977: 南極氷床斜面上の大気境界層, 天気, 24, 547-551.
- 真木太一, 1972: 昭和基地に於ける風向, 風速, 気温及び気温鉛直傾度の相互関係, 天気, 19, 359-367.
- 守田康太郎, 1971: 極地気象学・極地科学の展望, 極地, 4, 2-9.
- Orvig, S., 1970: Climates of the polar regions, World survey of climatology, Elsevier, New York, 14, 280-291.
- 清野喜兵衛・鈴木信雄, 1964: 昭和基地の高層気象と季節循環型の記述, 南極資料, 23, 12-31.
- 山内 恭, 1983: 南極における放射収支, 天気, 30, 427-445.
- 山崎道夫・井部良一・福谷 博, 1969: 昭和基地の天気と気象観測, 天気, 16, 339-348.

昭和60年度（第26回）東レ科学技術研究助成金の受領のお知らせ

当学会より推薦した九州大学助教授山形俊男会員（代表研究者）は「熱帯域の大規模な大気海洋相互作用（ENSO）とその気候変動に及ぼす影響」の研究題目に

より、昭和60年度（第26回）東レ科学技術研究助成金を受領することになった。

第18回乱流シンポジウム講演募集のお知らせ

開催日：昭和61年7月24日（木）、25日（土）
会 場：東京工業大学中棟3号館

申込締切：昭和61年5月31日（土）必着
詳細は学会事務局にお問い合わせ下さい。